

Inside The Glass

～第22回 空間デザイン・コンペティション～

物には生まれる過程がある。その過程を物から読み取れることで、どこか“あたたかみ”を感じれる。

木造建築には“あたたかみ”を感じれる。それは作り手が何ヶ月・何年もの工期をかけて作り上げるからだ。そこからは作り手の残したマーカーやキズや汗が見てとれる。

古代においてガラスは製法の難しさからとても貴重なものとされていた。そして高度な技術発展の結果大量生産が可能になり、どれも均等に均質で美しいガラスが作られるようになった。

まるで宇宙から運ばれてきたようだ。

だがガラスも人の手によって多くの過程を経て生まれるものである。

木材は大地の恵みを受けて育った森林から生まれる。ガラスは大地を覆う何種類もの岩石から生まれる。

本提案では、その岩石から砕かれ・熱せられガラスに変化していく過程をそのまま建材として使用する。

ガラスが生まれる過程を見て触ることで、どこか人間らしい“あたたかみ”を感じれるだろう。それは新たなガラスの美学と言える。



□ Diagram

ファイアライト

火災時の熱や熱衝撃に強く、高い安全性とクリアな視界を保つ、特定防火設備・防火設備用の超耐熱結晶化ガラスである。ガラスの持つ透明性、採光性などの機能とともに、優れた防火性がある。

ハンドクラフトガラス

ハンドクラフトガラスは1枚1枚手作りされた、工芸品のようなガラスである。特殊樹脂加工で工業型製品などにはない、ほど良い暖かみが生まれる。

ALC

主成分はガラスの原料でもある生石灰、珪石、セメント、石膏、アルミニウム粉末など。自然界における何万年もの営みを人工的に再現し、高い結晶性を生成している。そのため、耐火性、防火性、強度など建築物に求められる数多くの性能を高いレベルで満たす。

ファイアライト

ザラザラとした頑丈な手触りからしなやかで、なめらかな手触りへと変化する。

そこには、工業的・機械的でないどこか、人の作り手の暖かさを感じる。

ALC

□ Section

